

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 1F		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300025-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300025-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年1月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の前半はコロナの関係で、いつも行っている地域の方や保育園との交流が中止となりましたが、お花見には出かけることができました。後半には紅葉見学に出かけ、ボランティアの方にも来ていただくことができました。ホーム内で出来るレクリエーションを工夫し、行事食を増やしたり、ホームの畑で収穫できる野菜で季節を感じていただきました。  
そのほかは自立支援に力を入れ、認知症に伴う周辺症状を少しでも軽減できる様、水分摂取量、栄養摂取、運動をお一人お一人血液検査データや作業療法士の指導のもと行い改善していきました。主治医とも連携を図り、飲みすぎている薬の見直しを行ってきました。今では1年半以上続けていますが、10名以上の方が、眠前薬や下剤、精神薬の減薬に成功しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの入り口で、職員手書きのメッセージが来訪者を出迎えている。コロナ禍で制限していた面会も徐々に緩和しつつあり、職員は家族と利用者との関係性を大切にして、家族とともに利用者の生活を支えている。  
自立支援は、法人全体で力を入れて取り組んでいる。利用者の可能性を最大限に引き出すため、職員が積極的に動き、思いの実現に繋がれるよう支援している。利用者の思いの実現に向けて、まずは体調管理をということで、多職種連携による健康維持に取り組んでいる。  
職員は管理者を中心にチームとして利用者を支援し、地域との繋がりを大切にしながら、常に利用者本位の支援とは何かを考え、より良いサービスの質の向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔を笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています。	事業所理念を毎日の朝礼と夕礼で唱和し、その人にあったケアは何かを考え、それを実践している。法人理念を柱に、事業所理念を掲げており、入職時に学ぶだけでなく、定期面談においても振り返りの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し始めました。	しばらく停止していたボランティアの受け入れや地域の喫茶店でのモーニングを再開し、地域との付き合いが少しずつ日常的になりつつある。地域行事はまだ行われていないが、利用者からは待ち望む声があがっている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の要望だった面会とボランティアを再開しました。	対面開催を再開し、自治会長・民生委員などの地域代表や家族の参加もあり、様々な意見交換が活発に行われている。運営推進会議に合わせてクリスマス会などの行事を行い、家族が参加しやすいような工夫をしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会議に参加して情報共有しています。	市の担当者とは電話やメールで相談したり、書類を持っていくときに話をする関係ができている。事業所連絡会議は行政との情報交換の場となっており、空き状況の情報提供や困難事例などの検討なども行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵・居室の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組み、身体拘束廃止委員会を発足させ、虐待防止のチェックシートを使用し常に活動しています。	3ヶ月毎に委員会を開催し、チェックシートにより不適切ケアについての振り返りを行っている。職員は転倒のリスクを十分理解した上で、安全対策をしながら身体拘束をしないケアを実践し、家族にも理解を得ている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回高齢者虐待・身体拘束についての研修を行い、事業所内での虐待や身体拘束がないよう注意を払い、防止に努めています。	職員の気持ちの不安定さから虐待に繋がる不適切ケアが生じないよう、努めている。研修等で虐待や身体拘束について学ぶだけでなく、休息をしっかりとってもらい、気持ちに余裕をもって業務に就けるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの結果を参考に、ご家族様のお知りになりたいことを、お便りや新聞でわかりやすくお知らせしています。	家族からはアンケートや面会の時に意見を聞き、その内容は運営推進会議でも報告している。外出・外泊・ボランティアの受け入れ再開の要望が多く出されている。個別のお便りにも細かく状況をお知らせし、意見が出しやすいような工夫をしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。個別面談も実施しています。	会議での意見交換だけでなく、管理者が職員から、かしまらない雰囲気の中で話す時間を作り、気になっていることなどを聞いている。業務内容を職員全員で見直す取組みを行い、利用者支援の質を上げるように改善を行った実績がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れ、個人個人の能力に応じて給与が変わるようにし、個人の仕事に対するやりがい、向上心を持って働けるようにしています。	目標管理を実施し、人事考課の面談時に達成度を確認しながら次の目標に向けた話をしている。職員の頑張りたいという気持ちを大切に、個々の状況に合わせた働き方に配慮しつつ、みんなで成長していける雰囲気ができるよう努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での勉強会や資格取得のための勉強会を行っています。新入社員には仕事内容がしっかり理解できるまで、ベテランスタッフがについて指導しています。外国人スタにもわかりやすくマンツーマンで指導しています。	ホーム全体がスキルアップしていくために資格取得に力を入れて、職員一人ひとりが積極的に取り組むような雰囲気を大切にしている。OJTにも力を入れ、外部研修だけでなく社内でも様々な研修を行い、職員には多くの学びの機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナで実施できませんでした。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っていただけるよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での何気ない会話やアセスメント表を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています。	一人ひとりとじっくり向き合うことを大切にし、日常の関わりから把握した利用者の思いを叶えられるよう、家族からの協力を得ながら対応している。利用者の心の声は申し送りノートで共有し、介護計画に反映している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者と家族の意向を踏まえ、日常の記録をもとに会議で話し合いながら、個別性を意識した介護計画を作成している。介護計画を作成するにあたり、職員全員が関わることでより良いものになるよう努めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Noticeで管理し、データ化していつでも確認できるようにしています。	記録はIT化されており、時系列に見ることができ、利用者の状態の変化を確認しやすくなっている。音声入力にも対応しており、多くの情報が共有できるような仕組みとなっている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の回数を増やして欲しいとの要望で、毎日面会できるようにしました。	コロナ禍により行動が制限されていたため、改めて利用者のニーズの把握に取り組んでいる。地域との繋がりも大切にしながら、外部の人との関わりを持つことで刺激のある日常も提供できるよう、努めている。	利用者や家族からの要望が多い、ボランティアの受け入れなど、地域との繋がりから生まれるニーズの把握などを改めて行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の要望でボランティアの訪問を再開しました。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期往診以外にも、体調不良時に往診に来ていただき、適切な医療が受けられる体制を築いています。	かかりつけ医の選択は利用者の意向に沿うようにしている。ホームの協力医は緊急時の対応も可能で、急な体調変化にも適切な指示を仰ぐことができる。家族対応による外来受診の際も情報共有し、適切な医療が受けられるよう努めている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています。	入院時にはホームでの様子などを情報提供して、安心して治療を受けられるように支援している。医療機関との連携により、入院中の状況も把握し、退院後の受け入れ体制を整えられるよう、情報収集に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所のできることを十分説明しながら、主治医・訪問看護師と密に連絡を取り合って看取りケアに取り組んでいます。今年も4名の方の看取りを行いました。	家族からは看取りの希望が多く、状態変化があったときには丁寧な説明をしている。主治医や訪問看護の協力を得つつ、職員も利用者がより良い終末期を過ごせるよう、可能な限りの支援を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。	災害時の訓練は毎回想定を変えて行っている。法人内の事業所の協力体制が整っており、有事の際にはすぐに対応できるようになっている。福祉避難所に指定されているため、運営推進会議でも地域の災害について議題にして話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。不適切ケアチェック表を常に気にして仕事をしています。	会議の中でプライバシーや人権に関する話をして、職員の理解を深めている。利用者に対する言葉遣いには気を付け、行動を強制することがないようにしている。羞恥心にも配慮し、排泄や入浴の際の声掛けなどは特に気を付けるよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者に関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜を提供したり、一緒に収穫したりしています。外食ができないので行事食、郷土料理と一緒に作り楽しんでいただいています。	行事食は利用者から好評で、非日常の食事を楽しみにしている。敷地内の畑で収穫した野菜も活用し、旬の食材も取り入れている。イベントでカップケーキを作ることもあり、食べるだけでなく作る楽しみも味わっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫しています。水分量には気をつけており、1人1500CCは飲めるように支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力の応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナ口歯科に相談しながら、ケアしております。	自分でできることは継続しながら、職員がサポートし、口腔内の状況に合わせたケアをしている。義歯は職員が手入れをして、口腔内が清潔に保てるようにしている。訪問歯科による受診も可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツにせず、お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。また季節のお風呂として、ゆず風呂も行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。 服薬事故ゼロを目標に、スタッフ間で話し合い、より事故が無いように工夫しています。	服薬前、複数の職員と利用者本人とで確認し、服薬後も口の中に残っていないか、落薬していないかを確認することで、服薬事故防止に努めている。薬剤師との連携もあり、薬の相談をしやすい環境にある。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています。	ホームでの日常生活の一部として、家事などに利用者が関わることで、張り合いのある生活を送れるよう工夫している。車いすの生活になっても、近隣のパン屋でモーニングをするなど、楽しみごとが継続できるよう取り組んでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のパン屋さんでもモーニングをしたり、花見や紅葉見学に出かけることができました。	菜園の様子を見に行ったり、駐車場で日光浴や中庭でのティータイムを楽しんだり、少しでも外の空気に触れることができるように支援している。外出制限を徐々に緩和し、買い物支援などの再開を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナなので買い物支援はできませんでした。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節での行事の写真を掲示したり、利用者様と季節の貼り絵を制作して飾っています。季節の草花を飾るようにしています。	落ち着いて過ごせるような、ゆったりとした空間づくりを心掛けている。さかほぎ通信を飾り、行事などの写真を見て利用者同士で思い出話に花を咲かせたり、季節感のある飾りをして楽しく過ごせるような工夫をしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思い過ごせるように工夫しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談し工夫しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています。誕生日の色紙や写真を飾っています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 2F		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	令和5年12月22日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300025-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300025-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の前半はコロナの関係で、いつも行っている地域の方や保育園との交流が中止となりましたが、お花見には出かけることができました。後半には紅葉見学に出かけ、ボランティアの方にも来ていただくことができました。ホーム内で出来るレクリエーションを工夫し、行事食を増やしたり、ホームの畑で収穫できる野菜で季節を感じていただきました。  
そのほかは自立支援に力を入れ、認知症に伴う周辺症状を少しでも軽減できる様、水分摂取量、栄養摂取、運動をお一人お一人血液検査データや作業療法士の指導のもと行い改善していきました。主治医とも連携を図り、飲みすぎている薬の見直しを行ってきました。今では1年半以上続けていますが、10名以上の方が、眠前薬や下剤、精神薬の減薬に成功しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔を笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し始めました。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の要望だった面会とボランティアを再開しました。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会議に参加して情報共有しています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵・居室の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組み、身体拘束廃止委員会を発足させ、虐待防止のチェックシートを使用し常に活動しています。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回高齢者虐待・身体拘束についての研修を行い、事業所内での虐待や身体拘束がないよう注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの結果を参考に、ご家族様のお知りになりたいことを、お便りや新聞でわかりやすくお知らせしています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。個別面談も実施しています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を取り入れ、個人個人の能力に応じて給与が変わるようにし、個人の仕事に対するやりがい、向上心を持って働けるようにしています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での勉強会や資格取得のための勉強会を行っています。新入社員には仕事内容がしっかり理解できるまで、ベテランスタッフがについて指導しています。外国人スタにもわかりやすくマンツーマンで指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナで実施できませんでした。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っていただけるよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での何気ない会話やアセスメント表を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	Noticeで管理し、データ化していつでも確認できるようにしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の回数を増やして欲しいとの要望で、毎日面会できるようにしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の要望でボランティアの訪問を再開しました。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期往診以外にも、体調不良時に往診に来ていただき、適切な医療が受けれる体制を築いています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所のできることを十分説明しながら、主治医・訪問看護師と密に連絡を取り合って看取りケアに取り組んでいます。今年も4名の方の看取りを行いました。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。不適切ケアチェック表を常に気にして仕事をしています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者に関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜を提供したり、一緒に収穫したりしています。外食ができないので行事食、郷土料理と一緒に作り楽しんでいただいています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫しています。水分量には気をつけており、1人1500CCは飲めるように支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力の応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナ口歯科に相談しながら、ケアしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツにせず、お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。また季節のお風呂として、ゆず風呂も行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。 服薬事故ゼロを目標に、スタッフ間で話し合い、より事故が無いように工夫しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のパン屋さんでもモーニングをしたり、花見や紅葉見学に出かけることができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナなので買い物支援はできませんでした。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節での行事の写真を掲示したり、利用者様と季節の貼り絵を制作して飾っています。季節の草花を飾るようにしています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思い過ごせるように工夫しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談し工夫しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています。誕生日の色紙や写真を飾っています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています。		